

関連項目：教育活動プラン①、②

## 人間関係形成力をつける異学年交流

### 目的

本校は、全校生 138 名、各学年 20 人余りの 1 学級ずつである。一人ひとりの児童は素直で優しいが、少人数のために人間関係が固定化されやすい環境である。そこで、大勢の中でも伸び伸び活動したり、自分で判断して行動したりする力を付けることが重要と考え、従来から続けていた異学年による仲良しグループの活動を柱にして、人間関係を深めると共に、所属意識や自尊感情等を高めることをめざした。

### 内容

- **遊びを中心にした人間関係づくり**
  - ・ 全校を 4 色に分け、さらに、1 グループを 3 つの小グループに分けている。
  - ・ 水曜日朝の 20 分間を仲良しタイムとし、グループごとに遊んでいる。
  - ・ グループのメンバーに応じた遊び方を工夫している。
  - ・ 群れて遊ぶ遊びは、教師もいっしょにできる良さがある。

**遊びの例** けいどろ・凍りおに（おにごっこ）、かけっこ、ミニサッカー、風船バレー、ドッジボール 等



仲良しタイムのようす

- **自主性を高めるために、目的・内容を明確にする場を設定**
  - ・ どんな行事・活動にしたいか、どんな気持ちで参加したいか決める場をつくる。
  - ・ 自分の役割を自覚するグループの目標づくりや振り返りの場を大切にする。
  - ・ 教員は、担当の小グループだけでなく、協力して自分の色グループを支援する。これらの点を共通理解した。
- **一人ひとりの児童を丁寧に見て、変容や伸びを称賛**
  - ・ 教員は、児童の自発性をそぐことがないような配慮をし児童一人ひとりを観察することや他の教員からの情報を積極的に得た。
  - ・ 児童の願いをかなえるための関わりを大切に児童の伸びや変容を積極的にほめるようにした。
  - ・ 学期に 1 度、アンケートを実施し、客観的に変容を見る方法の一つとして活用した。

毎回の振り返りカード

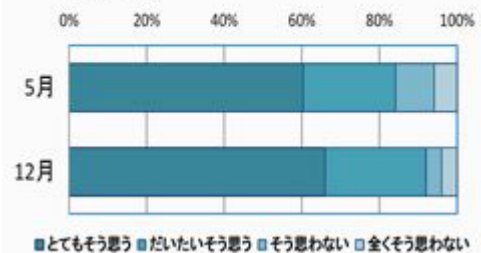
活動日	活動をふりかえってみよう！	チェック欄
15日	みんながたくさんと比べてよかった。 順番を決める。作戦を考えたい。	
組長の先生から	グループの一回一回のアドバイスがとてもよかったと思う。	◎



めあて・作戦づくり

### 仲良しアンケートより

協力してくれたり応援してくれたりする友だちがいる。



### 成果

- これまでの、児童に手順を示して運営させていた段階から、今年度は、児童自身が企画していくように取り組んだことで、児童が声をかけ合ったりメンバーに合わせた活動や作戦を考える等の児童が主体的に関わる場面が見られるようになった。
- より一層効果を上げるためには、目的を明確し共有すること、児童に任せる場をすること、変容や伸びを称賛すること、教師も活動に参加して助言者やサブリーダーの役割を務める意識をもつことが大切である。